

令和元年度 第6回政策推進会議報告

日 時 7月2日 13時30分～14時29分

場 所 4-1会議室

出席者 19人

1 (仮称)パートナーシップ宣誓制度の策定に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) 先日の男女共同参画推進会議でも先進都市の取組を共有したが、居住要件のところなど、いくつか論点を出しながら意見を聞いていくというプロセスがいいかなと思っている。できるだけ当事者の皆さんを中心にいろいろとご意見をいただきながら制度を完成させていきたい。市営住宅の関係など、いくつか業務の中で対応すべき点が出てくるかと思うので、全ての局と一緒に取り組んでいきたい。

2 平成30年度あまっ子ステップ・アップ調査の結果について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・全国一斉テストではないという説明だったが、総受検者を四層に分けるとするのは全国が対象になるのか。
- この調査を受けた全国の総受検者を分けているが、どこが受検したかは公表されていない。
- ・(市長) どの学校が受けているかまでは分からなくても、人数くらいは教えてくれてもいいのと思う。そこは業者に要望しておいてほしい。
- ・全国一斉ではないがある程度の規模で実施されており、もしも尼崎市が全国平均であれば、AからDが25%ずつになるということか。また、達成率が右側に書いてあるが、これは市として何か目標値があるのか。
- この調査は基礎的な内容が70%、発展的な内容が30%となっており、その中で次の学年に上がるために必要と思われる部分を目標値としている。したがって、そこに至らない子どもは少し指導していかないといけないということになる。
- ・(市長) 基本は70点を取ってれば達成しているということか。
- 基礎基本はできているということになるが、それ以上を目指していかないといけない。
- ・(市長) 教育委員会事務局へのリクエストとしては、この ABCD 階層を横の棒グラフにして、そこにこの達成率をドットで打ってほしい。要するに、データを見ると、例えば小学1年生の国語ではA層が20%を下回っているが、達成率は70%なので、このテストに限っては母集団が団子状態になっているということがわかる。したがって、相対評価ではA層に届いていないかもしれないが、十分に目標を達成しているということになる。一方で、小学4年生のように達成率が低いところについては、上のほうの階層に入っている、実は目標を達成していないという可能性がある。私たちとしては、一人ひとりの子どもが基本を積み逃さずに次の学年に進めているかということが非常に大事なポイントになるので、やはり達成率を

きちんと見ていく必要があるということで資料の追加をお願いしたい。

- ・(市長) 以前から、市議会でテストの実施時期について質問が出ている。尼崎市では小学校は12月、中学校は1月に調査を行っているが、それだと3学期の学習範囲がテストに入らないので、もっと遅い方がいいのではないかとされている。業者の試験は学校ごとに実施時期を選べるようになってきているのか。
 - ・年2回で年度の前半か後半かを選べて、尼崎市は後半としている。前半を選択すると、1学期に前学年の内容をテストすることになる。
 - ・この試験は、項目反応理論と言う統計的な手法を使って分析をしている。これは TOEIC や TOEFL と同じ手法だが、違う問題を解いていても、通過率としては同じように揃えられる手法である。したがって、皆が同じ問題を解いていなくても、市内では同じように比較できる。
 - ・(市長) 実施日がずれているから違う問題となるということか。
 - ・今の話は、経年で比較できるように点数を統計的に調整しているということである。今年受ける生徒と来年受ける生徒では問題が違うが、同じように点数が比較できるようにしている。その手法で計算したのがこの到達率である。
 - ・(市長) では結局、一学年分を全て試験範囲にしたければ次の学年に実施する必要があり、やはり尼崎市では進級する前に調査をしようということではないか。
- 学年が上がれば学習内容が進んでいってしまうので、やはり上がる前に弱いところの復習をしておかないといけないと考える。
- ・(市長) 当面その判断でよいと思う。
 - ・全国的にも、年度の後半で受ける自治体の方が多いようだ。
 - ・もうひとつ後半を選ぶ理由としては、教員の人事配置が4月に変わり、前年度のデータを踏まえて指導計画を立てて行くので、その時期に調査結果があったほうが4月のスタートも切りやすいということが挙げられる。
 - ・(市長) まだまだ始まったばかりなのでこれからの事業だが、学校にもしっかりとフィードバックをして、一緒にこの調査結果に応じた取組を進めていてもらいたいと期待している。同時に、やはりこの ABCD の四階層での分析というのは相対評価なので、先ほどから説明されているように、指導方法の中でこういったデータに基づいた習熟度別の支援をしたり、例えばある一人の子どもはずっと D 層かもしれないが、その子自身が去年より今年、今年より来年としっかりとステップ・アップしているかどうかということにも着目してしっかりと支援をしたりすることが大事である。一人ひとりの子どもの、誰かと比べてどうではなくて、自分自身がきちんとステップ・アップしているという手応えを感じながら学年を上がっていくということが、その子の自己肯定感や学ぶ楽しさということに大きな影響をもたらすのではないかという風に思っている。そういった両面で、このステップ・アップ調査を活用し尽くすというような形で今後も取り組んでいきたいと思う。

3 その他

- 総合政策局長から、第2回尼崎市文化未来奨励賞の募集について説明。
- 総合政策局長から、みんなのサマーセミナー及びまちじゅう学祭について説明。
- 経済環境局長から、あまがさき産業フェアについて説明。

- 経済環境局長から、たそがれクリーンキャンペーンについて説明。
- 総務局長から、Web 会議システムの導入について説明。

以 上